

コンセプト

セカンド クラクション



いま私達の生活のなかでかかすことのできない自動車ですが、改善するべきだと思ふことがあります。それはクラクションです。クラクションには、歩行者やほかの自動車に危険を知らせる重要な役目があります。

しかし、日頃生活するなかでクラクションを鳴らされたとき、驚いたりむかついたり、不愉快に感じる事がよくあります。クラクションには危険を知らせるという重大な役目があるのは確かですが、歩道もないような狭い道路で、歩行者に接近を知らせるために使うには攻撃的すぎると思ふます。実際にクラクションによるトラブルが起きています。また、お年寄りや障害をもった方に対して使っても効果がないことや、かえって悪影響を及ぼしてしまうこともあります。

そこで、お年寄りや障害をもった方など、歩行者に優しく知らせることができるクラクションが別にあれば良いのではと思ひました。トラブルの原因である不愉快な音を考え直し、歩行者の目線で歩行者に優しいクラクションを考えたいと思ひました。

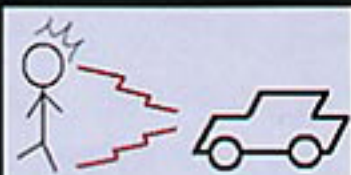
問題点

歩行者に軽く注意したとしても、クラクションの音は大きく、周りの人までもドクッとする。

- ・音が大きい
- ・音が機械的
- ・騒音になりうる

自転車や道を歩いているとき、いきなり後方からクラクションを鳴らされることがある。このとき、驚いて転倒してしまう人もある。

- ・びっくりする
- ・不意に鳴らされる
- ・かえって危ないことがある



音が大きいのでお年寄りの方にはとても使えない。また、クラクションは聴覚が不自由な方には聞こえないので、注意を知らせることができない。

・音でしか伝えられない

・お年寄りの方に使えない

・聴覚障害者の方に使っても効果がない

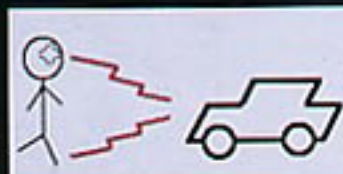


クラクションの音は歩行者に不快感を与えるため、暴行事件などのトラブルが起きてしまう。

・むかつく

・うるさい

・とても不愉快

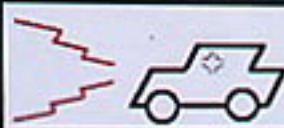


一方的に鳴らされ注意されるばかりなので、歩行者は不快感を持つ。

・音が攻撃的すぎる

・ドライバーが怒っているように感じる

・一方的にこちらが悪いといわれているように感じる



解決策

危険を知らせるための従来のクラクションをそのまま残して、それとは別に歩行者に対しても使えるように人間の感覚である、聴覚、視覚、嗅覚、触覚からうったえかけるセカンドクラクションを搭載させる！！

ハンドル部分の中心に3つのパターンをつける。



従来のクラクション

セカンドクラクションのしくみ

言葉で伝える



- ・聴覚的にうったえる
- ・歩行者やお年寄りの方にかかる注意するときや、道を開けてもらえるときに使う。
- ・音だけではなく「すみません」という言葉で、歩行者に優しく知らせる。



風、香りで伝える



- ・触覚、嗅覚的にうったえる
- ・温度と香りをつけた風をおくって歩行者に伝える
- ・柑橘系の香りにする
- ・夏は冷たい風、冬は暖かい風といったように、その季節に分かりやすい温度の風を出せる
- ・聴覚障害者の方などすべての歩行者に知らせることが出来る



色で伝える



- ・視覚的にうったえる
- ・窓ガラスを青く発光させて知らせる
- ・注意するために使うよりも、お礼の気持ちを表すために使う
- ・聴覚に障害をもった方に知らせることが出来る



まとめ

実際にセカンドクラクションが搭載された車が普及してきたときに、どうやって使い方の指導を行うか？

まず、これから免許を取得する人には教習所の教習指導の下、いままでの交通ルールと共に教えていただきます。すでに免許を持っている人には、免許更新のときに講習を受けてもらいます。

★講習の内容★

セカンドクラクションの社会への必要性から始まり、どのような場合だったら、使用してよいのか、乗車しての使い方といったものを理解してもらおう。

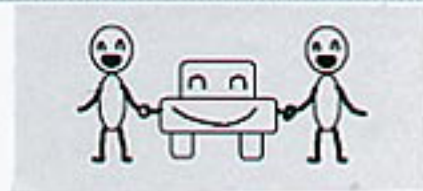


今までは自動車のエンジン音で、ある程度どこに自動車がいるのが分かりました。しかし、電気自動車のような音の静かな自動車もでてきて、これからどんどん増えてくると思います。

静かなことはとても良いことだと思いますが、静かということは歩行者が自動車の位置を把握しにくいということです。気がついたら自動車がすぐ後ろまで来ていた、ということも増えてくると思います。

歩行者が自動車に気がつかないと、必然的にクラクションが鳴ることが多くなると思います。クラクションを何度も鳴らされたのでは歩行者は不愉快です。

クラクションが鳴ることが多くなるのなら、歩行者に優しく接近を知らせることが必要になってくると思います。セカンドクラクションなら、このようなことが可能です。



歩行者の動きを最優先するのがクルマ社会のマナーだと思います。しかし、実際は歩行者に対してクラクションを鳴らしすぎではないかと思っています。だからといって、歩行者が全く怒くないというわけではありません。お互いのことを認め、ゆずりあうという気持ちが養われている気がします。

そこで、セカンドクラクションが普及すれば歩行者とドライバーにお互いにゆずりあうという気持ち生まれ、優しいクルマ社会になると思います。さらに、お互いにゆずりあうことで、交通安全にもつながっていくと思います。

ほぼ全ての人が歩行者かドライバーで、その両者がお互いにゆずりあう気持ちを持てば、それが社会に反映し優しい社会づくりにつながるのではないのでしょうか。